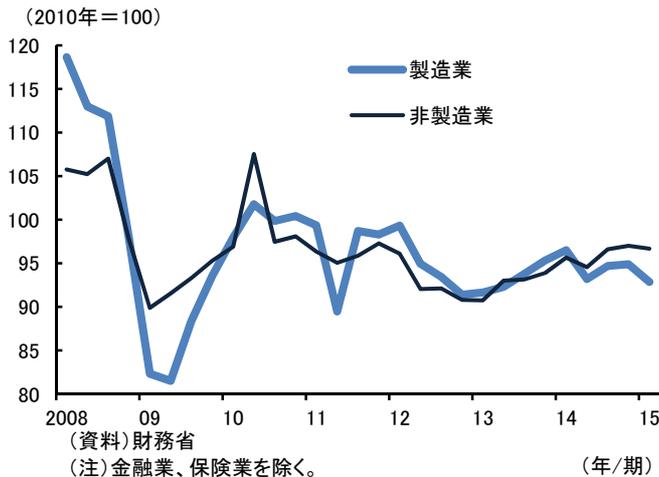


《QE予測シリーズ No.2015-2》

2015年1～3月期法人企業統計の評価と2次QE予測

- (1) 法人企業統計季報によると、2015年1～3月期の売上高（全産業・季調値）は前期比▲0.9%と、3四半期ぶりの減収（図表1）。内需の持ち直しペースが緩慢なことを背景に、製造業（同▲2.1%）、非製造業（同▲0.3%）ともに減収。また、経常利益も、同▲6.4%と減益（図表2）。もっとも、製造業が同▲20.3%の大幅減益となった一方、非製造業は同+2.7%と2四半期連続の増益。その結果、全体の水準としては引き続き高水準を維持。
- (2) 設備投資をみると、堅調な業績や良好な投資環境を受けて底堅く推移しており、製造業で前期比+2.3%、非製造業で同+7.6%、全体では同+5.8%と3四半期連続の増加。増勢は加速しており、設備投資/キャッシュフロー比率も上昇の兆し（図表3）。労働分配率も下げ止まり、企業業績改善が賃金増加に波及し、景気の好循環が作動しはじめるなか、設備投資は今後も底堅い推移が期待可能。
- (3) 今般の法人企業統計等を織り込んで改定される2015年1～3月期の実質GDP（2次QE）は、設備投資、公共投資が上方修正される一方、在庫が下方修正される見込み（図表4）。その結果、成長率は前期比年率+2.8%（前期比+0.7%）と1次QE（前期比年率+2.4%、前期比+0.6%）から上方修正される見込み。

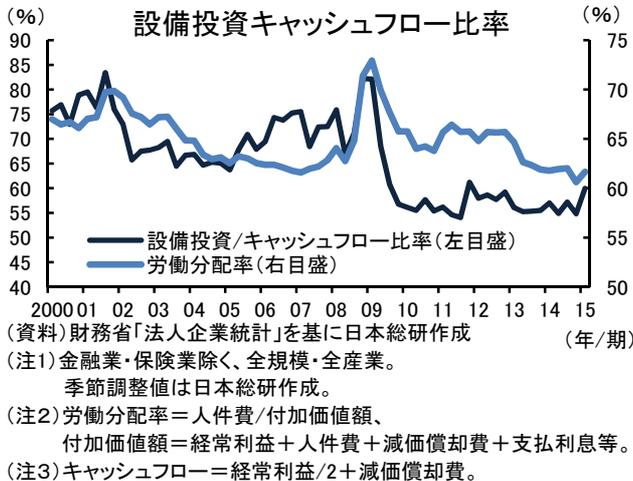
(図表1) 法人企業の売上高(全規模、季調値)



(図表2) 法人企業の経常利益(全規模、季調値)



(図表3) 労働分配率と



(図表4) 2015年1～3月期GDP統計予測

	1次QE		2次QE	
	前期比	前期比年率	前期比	前期比年率
実質GDP	0.6	2.4	0.7	2.8
内需 (寄与度)	(0.8)	(3.0)	(0.9)	(3.5)
民間 (寄与度)	(0.8)	(3.2)	(0.9)	(3.5)
個人消費	0.4	1.4	0.4	1.4
住宅投資	1.8	7.5	1.8	7.5
設備投資	0.4	1.4	2.3	9.7
民間在庫 (寄与度)	(0.5)	(2.0)	(0.2)	(0.9)
官公需 (寄与度)	(▲0.0)	(▲0.2)	(▲0.0)	(▲0.0)
政府消費	0.1	0.4	0.1	0.4
公共投資	▲1.4	▲5.5	▲0.6	▲2.5
公的在庫 (寄与度)	(0.0)	(▲0.0)	(0.0)	(▲0.0)
外需 (寄与度)	(▲0.2)	(▲0.7)	(▲0.2)	(▲0.7)
輸出	2.4	9.9	2.4	9.9
輸入	2.9	12.0	2.9	12.0
名目GDP	1.9	7.7	1.9	7.9

(資料)内閣府、財務省などを基に日本総研作成

【ご照会先】 調査部 研究員 菊地 秀朗 (kikuchi.hideaki@jri.co.jp , 03-6833-6228)

《QE予測シリーズ》は、直近四半期の日本経済、および法人企業統計の概況を解説するとともに、四半期別GDP速報の予測値と当面の景気見通しを示すものです。1次速報値と2次速報値について、年合計8回発表します。